

令和4年度大学ポートレートステークホルダー・ボード 主な意見
(令和4年10月28日開催)

1. 高校における大学ポートレート活用について

- 教員が全国の国公立大学を知ることによって進路指導の幅が広がるため、まずは教員が大学ポートレートを活用する体制を構築した。また、進路指導室に生徒用の端末を常備し、大学ポートレートを經由して各大学について調べられるようにした。その結果、地方も含め、国公立大学への進学者が明らかに増加した。
- 感想で「最初はとっつきにくかった」と書いた生徒も、「大学同士の比較はしやすい。また、各大学のHPを見る前にまず大学ポートレートを見るのが良かった。地域ごとに調べられるのも良い」と言っていた。
- 項目が統一されており大学間を比較しやすい。1、2年の高校生は、大学ポートレートを使うことで大学に関する内容や用語を自然に理解できるようになると感じた。
- 大学を検索するサイトは他にもいくつかあり、その中で大学ポートレートのたどり着くこと自体が難しい。また、PTA 連合会や高校の先生等が一度はアクセスするよう、組織を通して誘導していく必要がある。
- 生徒・保護者への周知が必要だ。コンテンツをどう使ってもらうか、その見せ方も工夫できるとよい。

2. 大学の IR や企業における大学ポートレート活用の可能性について

- 大学の IR という視点から見れば、コロナ禍による学習・教育のオンライン化でデータの大量蓄積が図らずも進んだこともあり、それらデータの透明性を高め、BI ツール等を活用しリアルタイムで共有することへのニーズが高まった。しかし、日本ではまだそこに追いついていない大学が多い。根拠に基づく意思決定への即時的な支援が IR の課題になるが、大学ポートレートはリアルタイムではなく過去の情報が集まるファクトブックになっている。
- 大学の教育や学位の価値を可視化するにあたり、日本の大学では何を指標とするか。その社会が重視する価値に対応した「問い」を大学ポートレートがどう打ち出すかは、大きな論点になる。
- 企業や大学でも社会人学習が重視されているので、閲覧者の想定に社会人を加え、リスク、リカレント学習に対して内容を拡大してほしい。

- 採用等において、企業は各大学がどの学問をどのように展開しているかを意外と知らず、大学ポートレートもほとんど知らない。企業への周知は大きな課題だと感じる。

3. 検索・比較機能について

- 選択肢から選ぶ検索は使いやすい。大学ポートレートでは余計な情報がなく、大学に関する情報に絞って検索できる点に保護者としては安心・安全を感じる。
- 1、2年の高校生にはこの機能で十分だが、3年生には受験科目等の入試情報での検索機能があるとよい。民間の受験情報サイトと相互リンクを貼るなどでも対応できる可能性があるのでは。
- (参加大学のみ表示される仕組みであることから、)所在地を選択して検索した場合に検索結果がゼロと表示されると、初心者にとっては選択した所在地に大学等が存在しないかのようなミスリードになる可能性があるため、不参加大学の一覧を示すなどすると良いのではないか。
- 「情報シャワー」と呼んでいるが、情報が多すぎても人は離れてしまう。ほしい情報にたどり着くのも難しくなる。情報をどう渡すかという点で、検索機能の充実や、「どのように見るのが効果的か」の情報を示すなどが考えられる。
- 大学を比較するためのものではないという考えには賛同する。一方で閲覧者には比較の意向があり、単純な比較にならないような形の工夫が運営の難しさだと感じる。
- 利用者としてはやはり大学を比べたい。順位が出るような比較ではなく、選んだ2校、3校を1画面で見られるような機能があれば、使い勝手が上がる。

4. 公表項目・発信内容について

- 今の経済状況では授業料や奨学金の情報がかなり大きな要素であると思われるが、記載が十分でない学校が散見された。また、在籍・退学・留年の情報は本当に必要だと思っているので、公表の充実を図ってほしい。
- 改組、新設、新課程入試等の情報や、入試の情報があれば汎用性が広がると思う。教育関連企業としては、各大学が中長期的にどう考えているかについても非常に関心がある。
- 更新が遅い印象があり、情報の鮮度が古い。現在の情報がステークホルダーに見えるような状況にしてほしい。
- 高校の先生も含めて認証評価への関心が高まっていることと、大学が増えたことに伴い、

質保証の重要性が増している。しかし、大学ポートレートでは認証評価の結果が表示されていない。適合、不適合の結果は一目でわかるようにしてほしい。また、古い認証評価の情報を掲載している大学も一部に見受けられるが、結果の如何を問わず最新の評価結果を掲載するようにしてほしい。

5. 大学ポートレート全体について

- 私学版は、シートごとの作りで必要な項目を探しやすいが、ページの容量が大きい。国公立版は、ページの容量が小さく、縦長なのでスマートフォンの画面からは見やすいが、必要な情報をピンポイントで探すことが難しい。
- 本当に欲しい情報に辿り着くことが難しいところがあったくない。
- 私学版のページから全体のトップページへも戻れるようにしてほしい。
- 大学セクターの枠組という意味において、日本の大学の状況を全く知らない人が見たとき、国公立と私学が分かれていることが隠れたメッセージを発してしまうのではと懸念している。
- 「大学基本情報」への分かりやすいリンクがないのはもったくない。
- アクセスの分析は、こういったステークホルダーに見られているのか、誰に対して情報提供するのかという点で貴重な情報であるため、引き続き把握してほしい。

以上